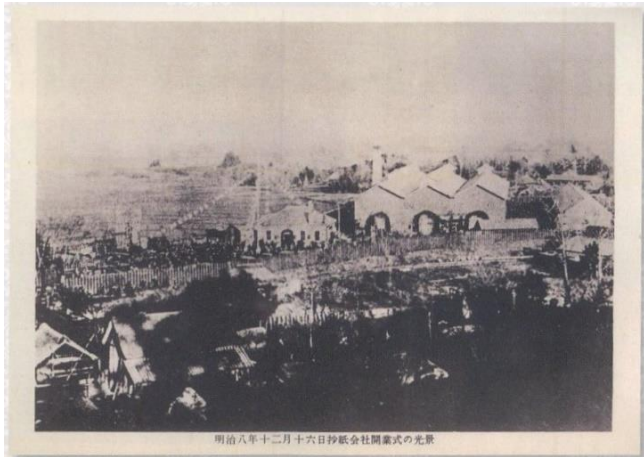


## 幕末明治の写真師列伝 第百十五回 内田九一 補足四

明治7年(1874)9月、鹿島岩蔵の鹿島組が工場建設を請負、着工。明治8年(1875)12月16日、抄紙会社工場開業式。



明治8年12月16日抄紙会社開業式の光景  
成田潔英『王子製紙社史 第1巻』  
(王子製紙社史編纂所、1956年)より転載。

村上一郎『蘭醫佐藤泰然—その生涯とその一族門流—』(佐藤泰然先生顕彰会、昭和61年)、日本医事新報社編『近代名醫一夕話 第1輯』(日本医事新報社、昭和12年)によると、明治5年(1872)4月10日に、松本順(良順)の実父である佐藤泰然が、肺炎にて下谷茅町にて逝去した際に、葬儀が神式で行われ、初め王子堀之内にある松本家の墓地につくられた。

佐藤泰然、明治5年(1872)4月10日、寄寓先の下谷茅町の山内六三郎の邸宅にて没。4月13日、葬儀。松本順(良順)の抱え屋敷内の松本家代々の墓地内に埋葬された。また、東京都公文書館にある「葬儀取扱届」によれば、「明治6年7月8日死亡 浜松県貫属士族松本順長女王子梶原同人抱え屋敷墳墓地へ埋葬」とある。

内田九一は、明治8年(1875)2月17日暁きに亡くなって、2月17日通夜、18日葬儀が行われ、翌19日、王子大字堀の内字郷戸(ごうと)、松本順(良順)の抱え屋敷内の松本家代々の墓地内に埋葬された。

『蘭醫佐藤泰然—その生涯とその一族門流—』掲載の「松本家家譜」によれば、松本順(良順)の養父・松本良甫(良甫戴)は、明治10年(1877)1月6日、東京牛込で亡くなり、抱え屋敷内の松本家代々の墓の佐藤泰然の墓の横に並んで埋葬された。

明治15年(1882)7月23日、佐藤泰然の養子・佐藤尚中、逝去。26日、谷中墓地に葬られた。「松本家家譜」によれば、明治維新直前に松本順(良順)の妹タツの里親だった堀江松五郎の屋敷を購入したとあることから、当初、堀江松五郎はこの屋敷に住んでいたものの、屋敷を売却した後、近くの北区堀船町一丁目943番に移転したと考えられる。



現在の王子駅南口付近

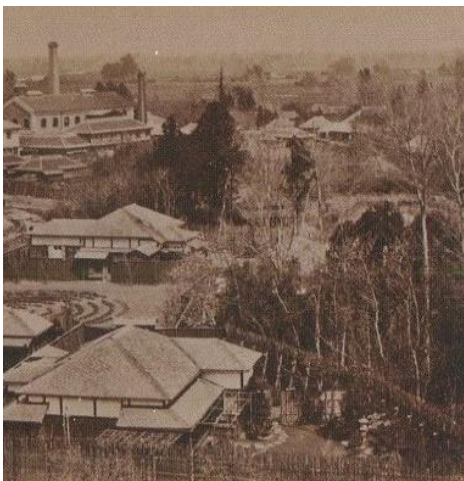
以上のことから、このパノラマ写真に写っている屋敷は、松本順(良順)の抱え屋敷の可能性が高いと思われる。

パノラマ写真に写っている屋敷の2軒の内、どちらが松本順(良順)の抱え屋敷だったかは不明だが、左の屋敷ではないだろうか。というのも明治初年にこの屋敷で松本順(良順)は病院を開設していたからである。(早稲田に移転する前)

その後、明治16年(1883)7月28日、日本鉄道、上野駅～熊谷駅間の開業と同時に王子駅が開設している。大正4年(1915)4月17日、王子電気軌道(現・都電荒川線)の王子停留場(電停)を設置。おそらくこの鉄道関係の開設で、松本順(良順)の抱え屋敷は壊されて、消滅してしまったのであろう。

抱え屋敷内の松本家代々の墓などは、松本順の生前から佐藤家が管理していたが、佐藤達次郎の時代になって色々整理の序に、佐藤家所有の空地、谷中霊園乙11号14側に移され、その際に松本家当主の松本本松が請い、松本家先祖の墓も同所に移された。さらに平成5年、現在の甲新16号24側に改葬された。

王子の抱え屋敷内、松本家代々の墓があったピンポイントの場所は不明であるが、このパノラマ写真を拡大してよく見ると、写真の右端に林が写っていることから、この場所ではないだろうかと僕は考えている。(終)  
(森重和雄)



『大東京區分圖三十五區之内 王子區詳細圖』(東京地形社、昭和15年)  
より部分拡大